

# 万葉集の牛窓

丸谷憲二



## 万葉集碑

万葉集・卷十一（成立 759 年以前）に柿本人麻呂の歌があります。

柿本人麻呂は、『万葉集』を代表するのみならず、日本文学史をも代表する歌人です。

牛窓の波の潮騒、島響(しまとよ)み、寄せてし君に、逢はずかもあらむ

読み方としては下記もあります。

牛窓の波の潮騒、島響み、寄そりし君は逢はずかもあらむ

卷十一は、旋頭歌(せどうか)、正述心緒(ただにおもひをのぶ)、寄物陳思(ものによせておもひをのぶ)、問答などから構成されており、柿本朝臣人麻呂歌集出典歌が多いのが特徴です。この歌は寄物陳思です。牛窓神社には、柿本人麻呂の歌がもう一つ伝承されています。万葉集・柿本朝臣人麻呂歌集にも収録されていない謎の歌です。

「車船、和田の御崎をかいめぐり、うし窓かけて汐やひくらむ」



牛窓神社蔵

後白河法皇撰の梁塵秘抄 卷三に 下記の歌があります。

須磨の関和田の岬をかい廻(ま)うたる車船、牛窓かけて潮や引くらん

『梁塵秘抄』

平安末期、後白河法皇(1127-1192)が編んだ歌謡集。主として「今様」と呼ばれる平安末期に流行した声楽の歌詞の集大成。成立年代は未詳だが、嘉応元年までに口伝集の大部分が成立していたと思われる。平安末期の庶民感覚が生生きと表現されており、文学史音楽史のみならず風俗思想史上にも重要な資料である。

#### 参考文献

『訓読万葉集 巻 11』 鹿持雅澄 著 『萬葉集古義』

「やまとうた」の水垣久先生より下記のご指導をいただきました。

「車船、和田の御崎をかいめぐり、うし窓かけて汐やひくらむ」

角川書店の新編国歌大観を検索しましたところ、鎌倉時代の歌集『歌枕名寄』の「畿内部十六 撰津国四」の「輪田入江」の項に次のように載っておりました。

郢曲 車船 牛窓

4377 車船わだのみさきをかいめぐり うしまどかけてしほや引くらん

「郢曲」というのは地方の民謡ということで、この書では作者を人麻呂とはしておりません。また、南北朝時代の歌集『六華集』にもほぼ同じ歌が載っています。

六帖

1561 車船和田のみさきをこぎめぐり 牛窓かけて塩やみつらん

やはり作者名は記されていません。「六帖」というのは「古今和歌六帖」のことですが、現在伝わる「古今和歌六帖」にこの歌は見えないようです。人麻呂の歌という伝承がどのように生まれたのか、私も興味あるところなのですが...

牛窓の地名の由来に関する「神功皇后縁起絵巻」の紹介

畝火山口神社所蔵「神功皇后縁起絵巻」



畝火山口神社（おむねやま）

奈良県橿原市大谷町 248-5 (0744) 22-4860 4960

祭神： 氣長足姫命（神功皇后） 豊受姫命 表筒男命

由緒、新抄勅格符鈔に、平城天皇大同元年（西暦806年）神封一戸を寄せられたことが載っています。清和天皇貞観元年正月（859）正五位下を授け、延喜の制では明神大社として祈年、月次、月嘗

の案上官幣及び祈雨の幣に預かりました。

畝火山は元帝室の御料林を守るためにその山麓において山神の霊を祀り、これが起源です。始めは畝火山の山腹にあったが、後に山頂に遷祀し、更に昭和15年12月、現在地に遷座し、郷社より県社になりました。神名帳に『畝火山口坐神社』とあり『畝火明神』又は『神功社』と称し応神天皇御降誕の伝承があります。

### 誉田八幡宮所蔵「神功皇后縁起絵巻 2巻」

永享5年（1433）奉納 室町時代 将軍 足利義教 国指定重文



老翁が大牛を海中へ投げ入れる段

皇后備後のとまりに付せ給時、長十丈はかりなる牛、輿の方より出来て、のらせ給つる御船を損せんとす、其時此老翁、彼牛の二の角を取て、海中へなけ入つ、然に此牛海中にして島となりて今にあり。仍此所をは「牛まと」といひて、文字にハ「牛まろはし」と書たり、其よりして皇后、この老人実にたゞ人にあらず、と馮しきことに思食て、御身近くめして、何事も仰合せられけり。

### 誉田八幡宮

大阪府羽曳野市誉田3丁目-2-8 0729-56-0635

誉田（こんだ）八幡宮は、応神天皇を主祭神として6世紀後半の欽明天皇時代に創建されたと伝えられる我国最古の八幡宮説があります。

### 八幡縁起絵巻と成立年

八幡大菩薩御縁起絵巻（東京：出光美術館 1322年・14c（鎌倉））

神功皇后の新羅出兵と応神天皇が八幡大菩薩となる話。

八幡大菩薩御縁起絵巻（米国：サンフランシスコ・アジア美術館 1389年・14c（南北朝））

神功皇后の新羅出兵と応神天皇が八幡大菩薩となる話。

八幡大菩薩御縁起絵巻（和歌山：鞆淵八幡神社・14c）

神功皇后の新羅出兵と応神天皇が八幡大菩薩となる話。

和歌山県紀の川市粉河町中鞆淵 58

八幡大菩薩御縁起絵巻（大阪：逸翁美術館 14c）

神功皇后の新羅出兵と応神天皇が八幡大菩薩となる話。

八幡大菩薩御縁起絵巻（兵庫：浜天神宮旧蔵 1527年・16c（室町））

神功皇后の新羅出兵と応神天皇が八幡大菩薩となる話。

八幡大菩薩御縁起絵巻（天理大学天理図書館 1531年・16c（室町））

神功皇后の新羅出兵と応神天皇が八幡大菩薩となる話。14c

東大寺八幡宮縁起絵巻（奈良：東大寺 1535年・16c）

神功皇后の新羅出兵と八幡宮の縁起。

八幡大菩薩御縁起絵巻（大分：八幡奈多宮 1560年・16c（室町））

神功皇后の新羅出兵と応神天皇が八幡大菩薩となる話。

大分県杵築市奈多 0978-63-8088

八幡大菩薩御縁起絵巻（東京：東京国立博物館 1560年・16c（室町））

神功皇后の新羅出兵と応神天皇が八幡大菩薩となる話。

### 「鹿苑院殿巖島詣記」1389年（康応1）3月

和田岬から讃岐国うた津へ

「六日、御舟出でて、牛窓、まるのすなどに至りぬ。誠や、此牛窓といふ所は、昔息長足姫（おきながたらしひめ）の御舟出の時、怪（け）しかる牛の、御舟を覆（くつがへ）さんとしけるを、住吉の御神の、捕りて投げさせ給ひしかば、彼の牛転（まる）び死けるが、島となりて、それより牛窓といふなりけり。牛転（まる）ぶと書いて、牛まどと訓むとなん聞き侍りしなり。」

歌人・今川了俊（貞世）の海路は：淀川～兵庫～歌津～巖島～三田尻～多度津～牛窓～兵庫

今川了俊は牛窓に寄航して伝承を確認して記録しております。

### 今川了俊

將軍足利義詮・義満に仕え、貞治六年(1367)には引付頭人となり、侍所頭人・山城守護を兼任し、同年末、義詮の死去を機に落飾して、以後了俊を号しました。応安三年(1370)、鎮西探題に任命されて翌年西下、九州の南朝勢力を制圧するという大功を挙げました。

しかし応永二年(1395)、大内義弘らの讒言にあい、鎮西探題を解任され帰京、遠江・駿河半国を与えられて遠江に下り、応永六年(1399)の応永の乱では足利氏満との結託を疑われ、義満の追討をうけて相模に退隠。降伏して許され、まもなく帰洛しました。その後は歌道と仏道に専念する隠遁生活に入りました。最晩年は駿河国堀越に下向し、応永19年～25年(1412-1418)頃、同地で没しました。

参考文献

中世日記紀行文学全評釈集成 第六巻 「鹿苑院殿巖島詣記」 平成16年 勉誠出版

### 神功皇后

神功皇后伝説は西日本・九州北部に数多く伝えられています。神功皇后（じんぐう・170年～269年）は、戦前は実在の人物でした。しかし、戦後は語られることもなく、現代の若者には知る人はおりません。神功皇后は、「古事記」では仲哀紀、「日本書紀」では神功皇后紀のなかで、「神功皇后伝説」として詳しく物語られています。熊襲征伐のため筑紫にきた第14代・仲哀（ちゅうあい）天皇が、香椎宮で急死すると、皇后は妊娠中でありながら、武内宿称（たけうちのすくね）とともに朝鮮半島に出陣し、新羅を討ち、また百済・高句麗をも帰服させ、帰国後に筑紫の宇美で第15代・応神天皇を産みました。その後、大和に帰り、応神天皇が即位する西暦270年まで摂政を行い、百歳で死亡しました。これが「記

紀」の記す神功皇后です。古事記・日本書紀によって創作された物語です。

現在では史実性は完全に否定されています。日本書紀 卷九に神功皇后摂政「66年 是年 晋武帝泰初二年晋起居注云 武帝泰初二年十月 倭女王遣重貢獻」と中国と倭の女王の記述が引用されており、収録するにあたって大和朝廷と「卑彌呼」を関連づけさせる為に伝承が作り上げられたと言う説があります。卑彌呼と同じような巫女王とする説もあります。応神天皇とともに八幡三神の1柱として信仰されるようになりました。

### 神功皇后伝説の時代背景 「神功皇后伝説」とは何か

日本と韓国の6世紀から7世紀の歴史を研究する際、最も重要な史料は720年成立の『日本書紀』です。しかし『日本書紀』を読み解く場合、気をつけなければならないのは、その当時の時代背景です。当時大和朝廷は、日本全土をようやく統治し、天皇を頂点とした体制作りを行なっていました。対内的には天皇がこの国を統治していくことの正当性を主張し、対外的には古代の韓半島を日本の属国としています。しかし、この辺は特に客観性を持ち研究する必要があります。それは、あくまで朝廷の主観で『日本書紀』が編纂されているからです。

『日本書紀』の記述を読み解くと、韓国の三国時代（伽耶、百済、新羅）、伽耶と百済は日本と友好的な関係があったようです。伽耶は日本の内宮家として扱われ、天皇の直轄領と記述されています。重要なのは7世紀後半、新羅によって韓半島が統一され、伽耶と百済が滅ぼされた結果、多くの人々が日本に渡り、渡来人となりました。新羅は、8世紀に入ってから朝廷にとっては脅威でした。新羅との外交政策のため、「神功皇后伝説」が度々使われました。『日本書紀』では、神功皇后は3世紀の人物とされ、神の啓示を受けて新羅征伐に向かったものの、新羅の王は“日本”は神国だから対抗できないとして服従したとされています。そして当時韓半島にあった、新羅、高句麗、百済を従えたことを“神功皇后の三韓征伐”と呼んでいます。しかし3世紀は弥生時代にあたり、豪族たちが諸国にわかれ争っていた時代で、大和政権のできる前です。その時代に海を渡り韓半島を征伐したとは考えにくいので、神功皇后は実在しない人物だと考えられています。このような架空の物語が『日本書紀』に描かれた背景には、新羅への対抗意識があったためです。「神功皇后伝説」は時代を超えて、日本の外交政策の中で象徴的に使われました。例えば鎌倉時代、高麗郡や南宋軍を従えた蒙古軍が日本を侵略してきました。大嵐により失敗したところ、これを神功皇后の神力によるものだとする“神功皇后信仰”が広められました。そして、神功皇后が新羅征伐に向かった時にお腹にいたとされる「応神天皇」をまつる八幡神社も多く建立されました。

#### 参考文献

韓日関係史講義レポート『神功皇后伝説』

牛窓神社

瀬戸内市牛窓町牛窓2147 0869-34-5197



牛窓神社

牛窓の八幡宮が牛窓神社です。

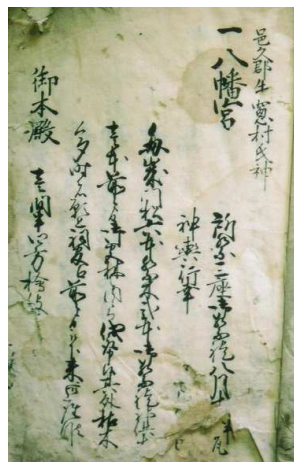
祭神 応神天皇・神功皇后・比賣大神・武内宿禰命  
由緒

牛窓神社は原初は、土地の神霊及び氏の祖先の神霊をまつっており、牛窓明神と呼ばれていました。長和年間(1012～1016)、教円大徳によって豊前(大分県)の宇佐八幡宮(八幡総本宮)から応神天皇・神功皇后・武内宿禰命・比賣大神の御神霊をお迎えして牛窓八幡宮となりました。保元3年(1158)の石清水八幡宮の古文書「官宣旨」に「牛窓別宮」とあります。神階は従三位、式外社、備前国古社128社の1社です。弘治元年(1555)芸州の乱の時、海賊の焼打ちに遭い、全山を焼失し、社殿、宝物、記録、縁起等全てを失いました。重要なのは長和年間(1012～1016)に宇佐八幡宮から八幡宮を勧請し、保元3年(1158)には石清水八幡宮の末社になっていることです。牛窓神社は神仏習合(両部神道)の神社でした。

神仏習合とは「神と仏が重ね合わさる」ということです。仏教が伝来して以来、日本の神と仏教の仏が交わり融合していきました。八幡神という神が八幡大菩薩という仏として信仰されました。

### 牛窓神社の記録

牛窓神社に「文政6年の神社御改書上」が残されています。寺社奉行への提出書類です。



其の余餘記新抄本と校とをなすは乃  
つて其の事なりとわかれしと山内社極久  
つて其の事なりとわかれしと山内社極久  
つて其の事なりとわかれしと山内社極久  
つて其の事なりとわかれしと山内社極久

八幡宮記  
五香宮記  
五香宮略録

備前國倉敷郡八幡宮  
八幡宮御祭神  
八幡宮御祭神  
八幡宮御祭神

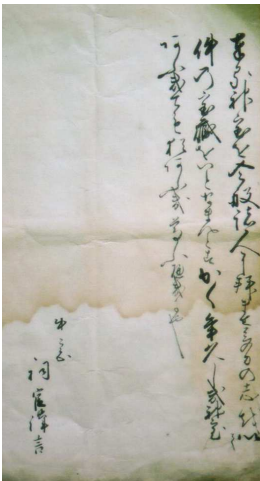
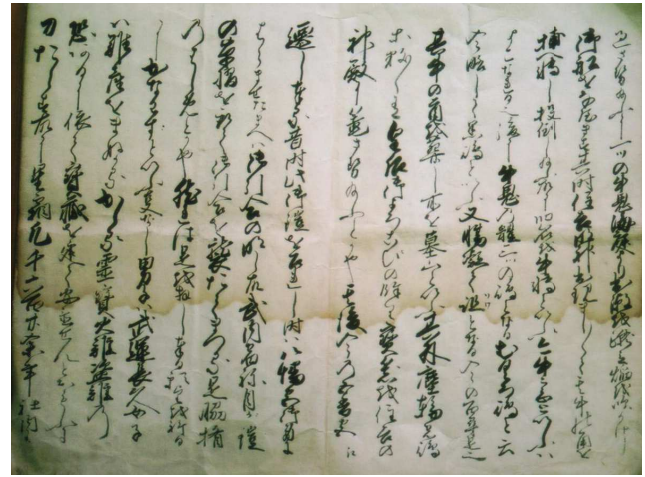
八幡宮記録・五香宮記録・五香宮略録起

八幡宮御祭神  
八幡宮御祭神  
八幡宮御祭神  
八幡宮御祭神

備前國倉敷郡八幡宮  
八幡宮御祭神  
八幡宮御祭神  
八幡宮御祭神

八幡宮御祭神  
八幡宮御祭神  
八幡宮御祭神  
八幡宮御祭神

八幡宮御祭神  
八幡宮御祭神  
八幡宮御祭神  
八幡宮御祭神



### 中世（荘園史）の牛窓

牛窓庄の初見年は建仁3年（1203）であり、出典は東寺百合文書・弘法寺文書・本蓮寺文書です。牛窓保（うしまど）の初見年は応永20年（1413）であり、出典は東寺百合文書・本蓮寺本堂棟別墨書銘です。鹿忍庄（かしの）の初見年は永仁5年（1297）であり、出典は本蓮寺文書・弘法寺文書・東寺文書・安仁神社文書・石清水文書です。

### 参考文献

- 『日本荘園データ-2 博物館資料調査報告書-6』 国立歴史民俗博物館 1995
- 『日本史大事典』 伊藤清郎



